



部長先生インタビュー

日本医科大学整形外科学教室 眞島 任史主任教授

日本医科大学整形外科学教室 大島 康史准教授

—— 同門会員で女性会員数は何名でしょうか？

大学病院に2人、大学附属4病院に5人、同門会員としては291人中17人、5.8%が女性会員です。

—— 貴教室のホームページでは、研修コースが丁寧に示されていますが、産休・育休・介護休暇などで中断せざるを得ない場合も、この研修コースに速やかに戻ることは可能でしょうか？

研修コースに戻ることは可能です。また、家庭状況などに合わせて、勤務日数や時間の短縮も可能です。

現在、整形外科医局では2人の女性医師が産休・育休の後に復職し、勤務時間を制限しながら、育児と仕事の両立に努力しています。

—— 初期研修期間中メンター制度（指導医が、研修医の相談役を務める）のようなものはありますか？

初期研修医は臨床研修センターに所属し、臨床研修を行っています。そのプログラムの中にメンター制度が含まれており、臨床研修委員会のメンバーである大学のスタッフ医師が相談役を務めております。

また、整形外科入局後は、それぞれの臨床研究班で3か月ずつローテーションしながら研修を行います。その間は屋根瓦方式で臨床研究班の指導医や各グループのメンバーが相談役としてサポートします。

—— 専門領域を決めるにあたっては、本人の希望はどの程度考慮されるのでしょうか？

整形外科への入局に関しては、比較的年齢の近い先輩医師や女性医師が、仕事内容や子育てとの両立など、実際の経験を含めて説明し、将来像を把握してもらった上で検討していただきます。また、入局後は女性医師も医局員として仕事をしますが、出産や育児、家族環境などによって、仕事内容を考慮します。具体的には、勤務時間の制限や夜勤不可、放射線透視下での仕事が困難などの場合には、手術症例や病棟業務、夜勤を制限し、外来診察を中心とした仕事をを行います。大学院に進学して研究を行い、医学博士を取得するという選択も可能です。

整形外科における専門領域の選択は、本人の希望を重視して検討します。まずは本人の希望と状況を確認し、選択肢を多数準備し、可能な範囲で希望に沿うことが、仕事を長く続ける秘訣と考え、対応したいと考えております。

—— 地域的に遠方への赴任も多いのではないかと推測されますが、育児・介護などの家庭的な状況も考慮されるのでしょうか？

関連病院の多くは都内および首都圏ですが、一部や遠方の派遣先であり、また都内であっても、家庭環境によっては通勤が困難なこともあります。まず家庭環境を確認し、医局員に積極的に協力してもらうことで、極力仕事を継続できる環境を整えています。本学には職員向けに「幸せキャリアセンター」があり、金銭を含めた育児・介護・研究継続の支援を積極的に行っております。

—— **専門性を追求するにあたり、短期・中期の国内留学のような研修制度はありますか？**

短期・中期の国内留学や、専門的な手術を習得可能な派遣病院などがあります。また反対に当院でフェローや国内留学を受け入れる制度もあります。

—— **育休・介護休などで、長期休職後の臨床への復帰にあたり、支援体制はつくっておられるのでしょうか？**

勤務時間の制限がある場合には外来を中心とした勤務、また休職による専門医取得の遅れに対しては、研修の遅れを支援できる体制を整えて、安心して目標を持って職場復帰できるよう心がけています。

—— **最後に医学生・研修医の先生・女性医師への応援メッセージをお願いいたします。**

日本医科大学整形外科は、臨床、教育、研究を偏りなく発展させるよう、日々努力しております。医学生や研修医の先生は、ぜひ一度見学に来ていただき、医局の雰囲気を感じてほしいと思います。

整形外科医として、まず一定レベルの臨床能力の習得は必須ですが、一方ではダイバーシティーを重視しており、女性医師を含め、それぞれの環境や将来設計を考慮しながら、選択肢を用意しておりますので、入局を考えておられる先生方は、ぜひ、働き方の希望を含め相談いただければと思います。

整形外科としての詳細な取組は、日本医科大学整形外科学教室のホームページに記載しており、女性医師のコメントなどを掲載していますので、下記 URL にてご確認ください。

日本医科大学整形外科学教室ホームページ

<http://nms-orthopaedics.com/>

日本医科大学整形外科学教室 男女共同参画の取組

<http://nms-orthopaedics.com/recruit/gender.html>